

SHIRAKOBATO

しらこぼ



2000. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 198

日本野鳥の会 埼玉県支部

『とうきょう』のガラスの数を調べよう

日本野鳥の会東京支部 川内 博 (和光市)

1. 年々ひどくなる東京の『ガラス問題』

県南の和光市に住む私は、ここのあるところ自宅から駅までの800m弱の間にある約10ヵ所のゴミ集積所を、週2回の可燃ゴミの日にはチェックしながら歩いています。朝7時過ぎに家を出て、途中で出会うガラスの数と集積所での「防鳥ネット」の掛け具合を調べているのです。ここ1年のガラスの出現率は30%、個体数は0.1羽、ネットの使用率は70%程度といったところです。ネットの使用率は年々高まっていますが、駅に近づくほど掛けている割合が低くなるという傾向がみられ、ゴミ漁りをしている姿もときどき見ます。

『とうきょうのガラスをどうすべきか』というシンポジウムを昨年2回に渡って開きました。東京の銀座や渋谷、池袋といった繁華街で、早朝ガラス（ハシブトガラス）が傍若無人に生ゴミを食い荒らすようすは、近くにお勤めの方は実際見たことがあると思いますし、テレビや新聞などを通じてご存知のことと思います（写真）。

そのような状態が30年続いているのに、いまだに効果的な対策はほとんどとられていません。また、都心部のねぐらでは年々集まってくる数が増えていることが明らかになっています（図1）。さらに、1990年代に入り、



人とガラスの距離が近くなり過ぎて、繁殖期に人を攻撃するという事態が頻発しています。

2. 埼玉にも飛び火する可能性

シンポジウムはそんな東京都心部のガラスの実状を踏まえて、このままでは社会的には『ガラスが悪者』になるという危惧から開催したものです。また、ガラスが多すぎることは、彼らの習性から野鳥をはじめ生態系へ多大な悪影響をおよぼす可能性が高いということも議題としました。さらに、この問題は徐々に首都圏一帯に拡大する傾向がみられているため、シンポジウムのタイトルは、首都圏一帯を対象として『とうきょう』としました。

実際、東京23区に隣接する和光市では、90年半ばごろに駅前通りで、残飯漁りが多発しましたし、私の住むマンションの屋根付きのゴミ置き場でも問題になったことがあります。また、千葉県内の東京都に近い市街地でも、90年代に入って同様の被害が生じはじめています。さらに、神奈川県内でも、ごく最近アンケートを採ったら予想外に問題が発生していると、神奈川支部長の浜口哲一さんからお聞きました。

幸いなことに埼玉県内では、今のところ大きなトラブルは聞いていませんが、各地の駅前などで眉をひそめるようなゴミの食い荒らしが多発しているのではないかと考えています。がいかがでしょうか。東京23区と同じようなゴミの出し方・集め方をしていると、早晚、

図1 激増続く東京のガラス

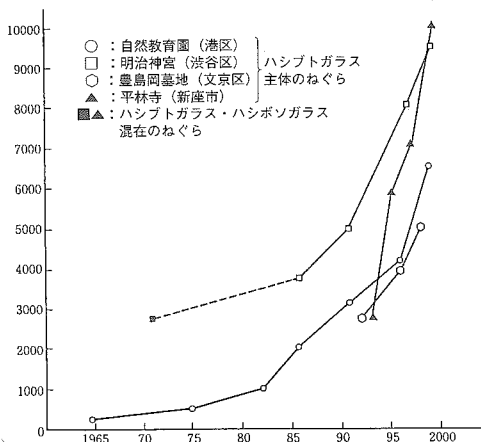
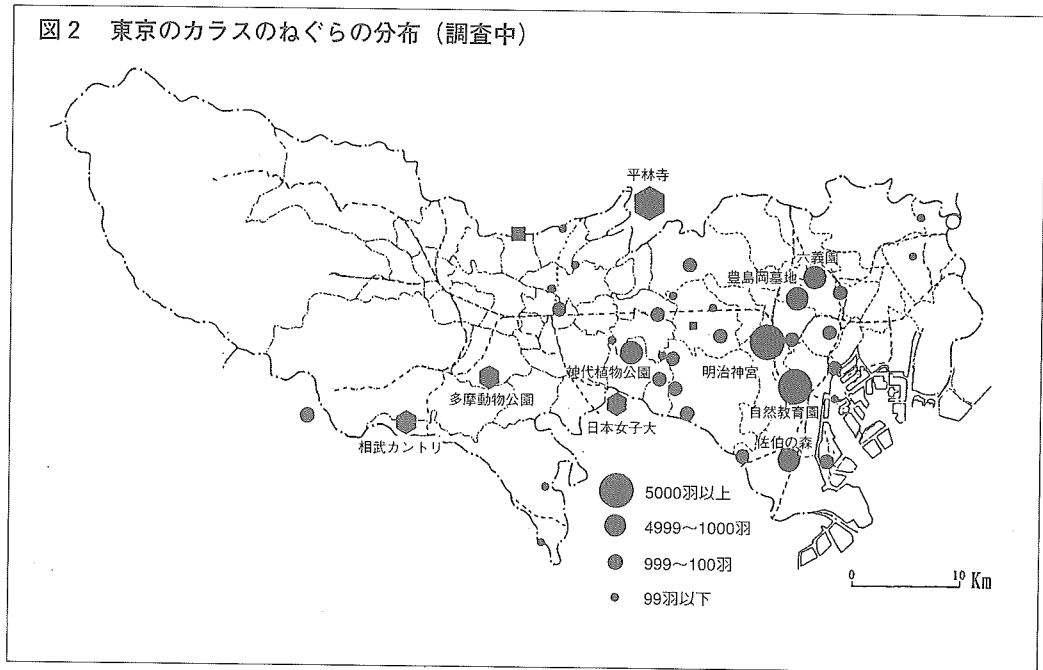


図2 東京のカラスのねぐらの分布 (調査中)



同じ道を進むことになると危惧されます。

ット掛け」が広い地域で普及してきています。

3. 動き出した東京のカラス対策

今年の6月半ば、マスコミにカラスの話題がしばしば登場しました。東京都が発表したカラス「緊急捕獲」作戦のようすを報じたものです。この対策には根本的な間違いがあり大問題ですが、ここでは深入りせずに、行政が『カラス問題』に正面から取り組んできたことを評価したいと思います。(注)

マスコミは人気者・石原都知事の直々発言として『おもしろおかしく』その顛末を伝えるものが多く、問題の本質をとらえていなかったのが残念でした。しかし、これに限らず、新都知事になって23区のゴミ収集時間の1～2時間繰り上げやゴミ処分場の夜間受け入れなど、具体的な対応策が次々と出てきています。また、自由が丘や銀座の商店街の民間による夜間収集、三鷹市の自治体による夜間収集など、抜本的な対策も徐々に実施されていますし、今年の4月からは区へ清掃業務が移管され、独自の対応策を考えている区も出てきています。さらに、対症療法的な手法ですが、今のところ一番効果がある生ゴミへの「ネ

4. モニタリング調査の必要性

ところで、これらの策がどれだけ有効か、どんな影響があるのか、その効果測定は必要事項です。ところが都の関係部署の担当者に聞いたところ「予算がない」の一点張りで、現状を調査することも、今後のモニタリング調査をすることも、今のところその意志がないようです。そんなさけない行政を非難することも必要ですが、逆に、野鳥の会の本領を発揮して、ボランティアでその調査をしようというのが今回の呼びかけです。

図1のグラフのように、都心部のねぐらに集まる数は右肩上がりです。ところがこれらの数を単純に合計すれば東京のカラスの人口かといえば、それを言い切るにはあまりにもデータが不足しています。例えば、昨冬に実施した東京でのねぐら調査の結果、今まで知られていなかった中規模・小規模のねぐらがたくさん見つかりました(図2)。また、東京に隣接する埼玉県新座市の平林寺では1万羽近くが数えられていますし、神奈川県川崎市や千葉県松戸市でも千羽程度のねぐらが見

ついています。しかし、それ以上は東京支部や野鳥の会研究センターでは把握できませんでした。

そこで、今冬は首都圏各地の有志の方にお願ひして、東京駅から50km圏でのねぐらの実態を調べてみようと思っています(図3)。このように、広範囲で調べる意味は、今後、さまざまな対策が講じられたとき、都心部の数ヵ所の大規模ねぐらだけを調べていても、周辺地域での動きが見えないとその効果を正しく判断できないからです。

この調査に参加を希望される方は、ご連絡を下さい。詳細をお知らせします。

【調査要領】

- (1) 場所：東京を中心とした50km圏。それ以外も参考資料として収集します。
- (2) 期間：2000年12月～2001年1月
- (3) おもな調査事項：①ねぐらの正確な場所 ②ねぐら入りする個体数 ③種類

【連絡先】〒160-0022 新宿区新宿5-18-16 新宿伊藤ビル3階 日本野鳥の会東京支部・研究部 TEL 03-5273-5141 FAX 03-5273-5142

(注) カラス・シンボ第3弾『とうきょうのカラスをこうして減らす』(別記参照)で、問題点を明らかにする予定です。ぜひ、ご参加下さい。

【参考文献】

- 川内博・松田道生編, 1999. カラス・シンポジウム報告書1・2. 日本野鳥の会東京支部
 川内博・遠藤秀紀, 2000. 現代日本生物誌・1 カラスとネズミ. 岩波書店
 松田道生, 2000. カラス、なぜ襲う 都市に棲む野生. 河出書房新社

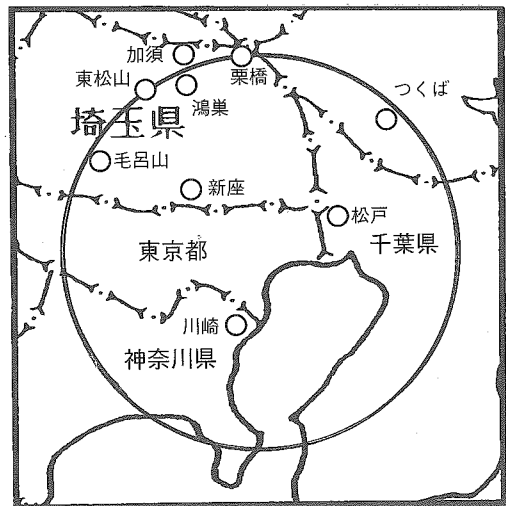
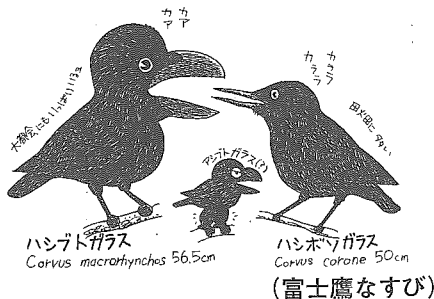


図3 東京50km圏

(別記)

第3回カラス・シンポジウムを開催します。
 『とうきょうのカラスをこうして減らす』

- (1) 主催：日本野鳥の会東京支部・立教大学
- (2) 後援：(財)日本野鳥の会・(財)日本鳥類保護連盟
- (3) 日時：2000年10月8日(日) 正午開場、1時～5時
- (4) 会場：立教大学5号館5122教室(東京・池袋)(下図)
- (5) 題名：とうきょうのカラスをこうして減らす
- (6) パネリスト：浜口哲一氏(平塚市博物館学芸員)、川嶋直久氏(三鷹市・ごみ対策課長)、星 維子氏(日本野鳥の会会員)、川内博氏(日本野鳥の会東京支部副支部長)
- (7) 定員：200名(先着順)
- (8) 資料代：1000円
- (9) 日本野鳥の会東京支部
 TEL：03-5273-5141



ヘビと鳥たち

浅見健一（大宮市）

7月5日午前8時ごろ、大宮市三橋の鴨川土手斜面にてオナガ達のけたたましい鳴声。普段はたまに通過するだけなのに、どうしたのだらうと、そっと接近。なんと4羽のオナガが一匹のヘビのまわりを取り囲み、激しく警戒の声を上げている。ヘビは移動もできずその場に留まったまま。オナガも攻撃する様子もなく、ただ騒ぐのみ。ついにたまりかねたのか、ヘビは岸辺に降り、アシ原にもぐりこむ。オナガの勝ちでした。すぐ近くにはスズメとムクドリが数羽ずつ採餌中でしたが、まったく無関心。なぜオナガだけがヘビに対し関心を示し、警戒したのでしょうか。

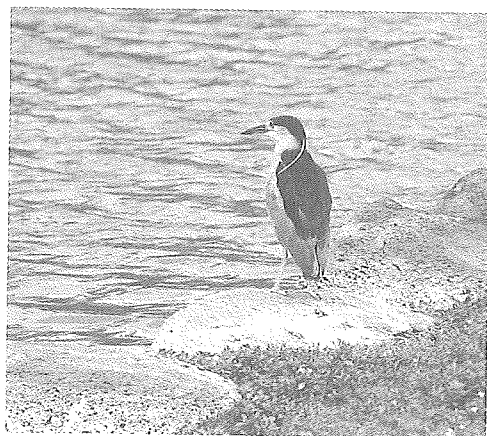
7月10日午前9時ごろ、同じく鴨川にて観察中、聞いたことのないとても鋭い鳥の鳴声と激しい水音。なんだ！ 徐々に近寄る。皆さん、わかりますか、このわくわくする気分。

川に張りだすアシの上で、一羽のバンが困ったように鳴く。その下、バンシャバシャ、水音と共にカイツブリが2羽、顔を出し、すぐに潜水。なにか水中に黒いものも見える。まさかカイツブリが大きな魚を捕るってことはないし。すると何とヘビが、水中より現れたのです。川の中でくねくねするヘビを、カイツブリが潜水しながらさかんに攻撃している警戒の声と、互いの水音でした。ヘビは岸辺のアシ原に、ついに逃げ込みました。勇敢なカイツブリのご夫婦でした。身近な場所で、野生の厳しさ、凄さを垣間見た一瞬でした。毎年この付近で、バンもカイツブリも子育てをしています。きっと外敵がたくさんいるのでしょうか。今年もここでは2羽のカイツブリが育ちましたが、バンの子供は確認できません。きっと鳥達は、この小さな自然の中で精一杯生きているのでしょう。

うれしい悲鳴？個人的野鳥110番

陶山和良（浦和市）

「ツバメがカラスに又やられました。春さきから玄関の上で営巣し抱卵に入っていたのに…」と、お手伝いをしている公民館から残念そうな電話が入ったのが1ヵ月前。



ゴイスギ（山内 元）

カラスおどしをつければツバメも驚くだろうし、かと言ってカラスばかりを監視している訳にはいかないし、自然の生態でいたしかたないと回答するのもつれなく思われるだろうし…。そこで来館される皆さんに「ツバメからのお願い」として、事の次第を貼紙にしアピールして関心をもって頂きました。

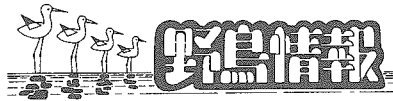
功を奏したのか、やっと雛にかえりほっとしたのも束の間、今度は雛が1羽巣から落ちましたとの事。私の不在中の電話であり、鳥好きの職員が持ち帰ったとあとで連絡が来ました。

このように我が家には、度々、野鳥の話が持ち込まれます。現物が運び込まれることもあります。

ムクドリの雛が迷い込んで来たので…、怪我をしたキジバトが家の前でうずくまっていたので…、嘴の黄色い珍しい鳥が肩にとまりましたとシジュウカラの雛を持ち込まれたり…、自動車のフロントガラスに変な鳥がぶつかったのですぐ来て下さい…、団地のケヤキ並木に野鳥の大群が来てうさくて眠れない、何とかしてくれないだろうか…、等々、春さきからうさきことです。さながら野鳥110番です。

でも、普段、会話をする機会の少ない方達と野鳥を通して語りあい、野鳥に少しでも関心をもつようになって頂ければ…との思いでいると、度重なる悲鳴も喜びに変わって来るこの頃です。

野鳥たちよ、元気に育って下さい。



戸田市道満彩湖 ◇6月1日、メボソムシクイ1羽。6月15日、クロジ♂1羽(高橋達也)。◇6月15日、クロハラアジサシ第1回夏羽と思われる個体が1羽、ポツンと水面上の噴水設備におりていた(鈴木紀雄)。◇8月19日、センダイムシクイ1羽。8月23日、コムクドリ4羽。8月26日、コサメビタキ1羽(高橋達也)。

戸田市荒川 ◇6月3日、戸田橋付近の河川敷でノジコ♀1羽(高橋達也)。

浦和市宮本 ◇6月1日午後2時頃、氷川女体神社でホトトギス1羽(藤原寛治)。

浦和市秋ヶ瀬 ◇6月10日、大久保農耕地B区でコリンズヅラ1羽、かご抜けして、野鳥になりました(細井要)。◇6月13日、B区でヒクイナの声。若者2名が調査でアシ原に入ると、あちこちからヨシゴイが飛びだした。ヒクイナも道路を斜めに横切って逃げていった。赤い足が印象的だった。6月24日、B区で雨の中をヨシゴイがよく飛んでいた。ヒクイナは、声はすれども姿は見えず3~4羽があちこちで鳴いている感じ。6月29日、B区で久しぶりにオオタカが出現、田の中に降りて、見えなくなった(鈴木紀雄)。

大宮市三橋5丁目 ◇6月7日、鴨川でカイツブリ4羽、500m位の間隔で2組が営巢中。いずれも1羽は巢の中、1羽は付近で潜水、巢材をくわえ巢の補強中。川が増水



ミンサザイ(山内 元)

せず、無事ヒナを育てられると良いのですが(浅見健一)。

大宮市日進町1丁目 ◇6月7日、ホトトギスの鳴き声が付近の団地に響きわたり、きれいでした。アオバトの鳴き声が聞こえた。私も半信半疑でしたが、間違いなく特徴ある寂しげな声でした。6月15日、カッコウ1羽(浅見健一、徹)。

大宮市宮原1丁目 ◇6月18日、コアジサシ成鳥5羽、ヒナ2羽。工場跡地で繁殖中。餌の小魚は大宮公園ボート池で捕っているようだ。同日、池でコアジサシ最大8羽確認。工場跡地でコチドリ4羽、鳴きながら飛び回っていた(浅見健一、徹)。

大宮市深作 ◇7月1日、今年も造成地で繁殖したコアジサシが遊水池上空を飛んでいた。親が時々降りたっては、中洲にいる若鳥12羽に小魚を与えていた(鈴木紀雄)。

大宮市大谷 ◇7月4日午後4時頃、環境広場でタマシギ♀1羽、雷雨がおさまった頃に水のたまった草原でお尻を振りながら採餌中(鈴木紀雄)。

岩槻市長宮 ◇6月13日、チュウサギ20羽以上(鈴木紀雄)。

岩槻市大戸 ◇6月14日、15日、アシ原でヨシゴイが飛んだ。7月3日、道路脇の深めの側溝でバンのヒナ3羽が落ちて泳いでいた。近寄ると、潜水して逃げた。親も近くでウロウロ。脱出できないのではと思い、近所の家にアミを借りていったら「毎年、溝で泳いでいて、ちゃんと出られる場所がある。」とのことなので、そのまま立ち去った(鈴木紀雄)。

春日部市増田新田 ◇6月23日、25日、武徳川でカワセミの幼鳥4羽、フェンス上に並んでちょこんとしている様はかわいらしかった(石川敏男)。

春日部市下大増新田 ◇7月23、24日、休耕田でタマシギ♂♀各1羽ずつが仲良く並んでいた(鈴木紀雄)。

春日部市八丁目 ◇7月28日、休耕田の水面上でカルガモがヒナ10羽を連れて泳いでいた。普段は、丁寧に見ないカルガモだが、子連れはかわいいものだ(鈴木紀雄)。

春日部市不動院野 ◇7月31日、休耕田でタカブシギ(鈴木紀雄)。

越谷市三野宮 ◇7月24日、県立大学北側の小さな湿った草地の中でタマシギ♀2羽、車内から近距離で見られたが、そのうち草の中を移動して水田の中へ(鈴木紀雄)。

越生町麦原 ◇5月28日、ミソサザイ、3~4ヶ所でさかんにさえぎっていた。シメ2羽、ホトトギスの鳴き声。クロツグミのさえぎり(後藤康夫)。

名栗村 ◇6月5日、名栗湖方面でアオバト、ツツドリ、ホトトギス、オオルリ、キビタキ、ミソサザイの声を聞くも、姿見えず(鈴木紀雄)。

渡良瀬遊水地 ◇6月7日、サシバが土手で餌をねらっている姿を2ヶ所で確認。顔、胸の白いチュウヒが枝をもって湿原に降りた。もしや営巣? カッコウ2羽以上、セイタカシギ2羽(鈴木紀雄)。

玉川村雀川砂防ダム ◇6月25日、サンコウチョウ♂1羽、ホトトギス、イカル、キセキレイ、メジロ(後藤康夫、澤井清)。

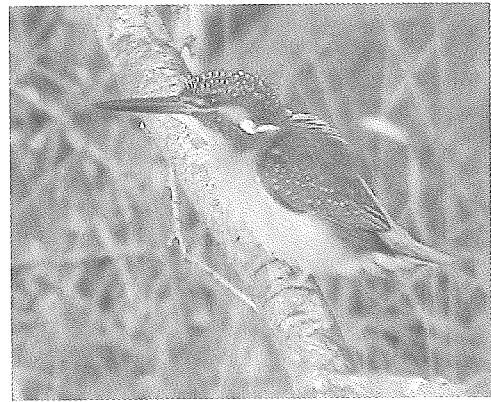
寄居町風布 ◇6月25日、サンコウチョウ♂♀各1羽(後藤康夫、澤井清)。

寄居町鉢形小学校 ◇6月25日、アオバズク1羽(後藤康夫、澤井清)。◇8月6日午後3時頃、杉林の中でアオバト2羽、盛んに鳴いていた(後藤康夫)。

坂戸市坂戸神社 ◇7月15日、オナガ数羽、現在繁殖子育て中(後藤康夫、澤井清)。

坂戸市入西調整池 ◇7月15日、カイツブリ、バン、ヨシゴイ♂♀各1羽。カイツブリ、バン共に幼鳥各数羽づつ。カイツブリは浮き巣で卵を抱いているのもいた(後藤康夫、澤井清)。

嵐山町菅谷館~都幾川 ◇7月22日、イカル



カワセミ(編集部)

チドリ4羽、カワセミ3羽、セッカ、アカゲラ、ゴイサギ1羽(後藤康夫)。

川越市南古谷 ◇7月24日、シギが飛んだので、降りた地点に近づき、ジシギ類発見。顔を初め全体に赤褐色味がなく、淡色で首を伸ばしたポーズなどからオオジシギと判断した(鈴木紀雄)。

吹上町荊原 ◇8月5、6日午前6時30分頃、荒川土手堤外でヨシゴイ1羽。8月6~8日午前6時30分頃、同地でコヨシキリ5羽以上、アシの上を盛んに飛び回り、葉の上でさえぎりを繰り返していた。従来、熊谷市、吹上町、鴻巣市などの荒川河川敷ではあまり見られなかった種と思います。吹上町では1~2年前から観察例を耳にしましたが、今回姿をはっきりと確認しました(逸見嶮)。

川本町荒川明戸堰 ◇8月14日、ササゴイ成鳥1羽、幼鳥1羽。幼鳥が流木の小さな枝をちぎって、擬似餌として流れに入れているのを見た。ササゴイの「擬似餌」については話では聞いていたが、初めて確認した。ショウドウツバメ7~8羽(後藤康夫、澤井清)。

表紙の写真

エゾビタキ(スズメ目ヒタキ科ヒタキ亜科サメビタキ属) 撮影:菱沼一充(板橋区)

繁殖地:ロシア極東地方・中国北東部・サハリン・カムチャツカ半島・千島列島。

越冬地:フェアフィン・ニューギニアなど。

日本には旅鳥として春と秋に通過する。特に秋は、梢にとまって虫が飛ぶのを見張っている姿が目につく。英名では、Grey-spotted Flycatcher、または Spot-breasted Flycatcher、Grey-streaked Flycatcher とも言う。(解説:編集部)

行事あんない



◆10月1日(日)の浦和市・民家園周辺定例探鳥会、および北本市・石戸宿定例探鳥会は9月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：和田、森本、中里、石井(博)、倉崎、松本、高橋、後藤

見どころ：フィールドはもう冬支度を始めています。早いお着きの冬鳥、渡りそびれている夏鳥、10月は両方が見られる月です。猛禽が舞う澄み切った青空、風にそよぐススキなど、秋を満喫しながら歩きましょう。

浦和市・大久保農耕地探鳥会

期日：10月9日(月・祝)

集合：午前8時、JR浦和駅西口バスロータリー、集合後バスで現地(やつしまニュータウン)へ。

担当：福井、楠見、小林、海老原、倉林

見どころ：秋は駆け足でやってくる。最も過ごしやすい時期となって、土手の上から秩父の山々も近づいてみえるようになってきた。冬鳥の第一陣はもう来てくれているだろうか。ヒタキの仲間に期待がかかる。一方でシギやチドリとは別れの月になる。

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：10月15日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、倉林、渡辺(周)、笠原、若林、兼元、森(力)、清水、小菅

見どころ：夏休みに探鳥会に参加し、きらきらと目を輝かせていた子供たちは元気になっているだろうか。季節は秋の支度、鳥たちが続々と見沼たんぼに帰ってきた。探鳥会に子供たちの元気な姿を見たい。そして、鳥たちの成長が見たい。そんな季節の探鳥会にぜひお出で下さい。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月21日(土)～22日(日)

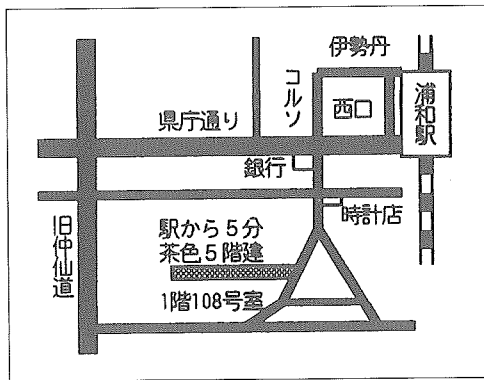
定員に達したので締め切りました。

「しらこぼと」袋つめの会

とき：10月21日(土)午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

案内：「連絡帳」欄の通りです。ビデオやスライドは、当日直接ご持参ください。個人的な観察結果や旅行記などの発表は、事前に事務局にご連絡願います。いろいろなアイデア歓迎します。



川越市・西川越探鳥会

期日：10月22日（日）

集合：午前9時、JR川越線西川越駅前

交通：JR埼京線大宮8：36発にて、川越8：57発に乗り継ぎ、西川越下車。

担当：佐久間、長谷部、石井(幸)、中村(祐)、山本(真)、池永、山本(義)

見どころ：秋の紅葉もそろそろ山から里へ下りてくるころです。鳥たちも北から南へ移動しています。ここでもモズがあちこちで鳴き、サギやタカ類が飛びかっています。カワセミやタゲリも見られるだろうか。

行田市・さきたま古墳後援探鳥会

期日：10月22日（日）

集合：午前9時30分、県立さきたま資料館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口より、東武バス行田車庫（佐間経由）行き8：55発にて「産業道路」下車、徒歩約15分。

担当：内藤、岡安、和田、立石、石井(博)、松本

見どころ：朝晩はぐんと涼しくなり、冬鳥の便りも聞かれるようになりました。古墳の池にはカモの第一陣も飛来して翼を休めているにちがいない。深まりゆく秋に連れて、日ごとに賑やかさを増していく「さきたま」です。期待しましょう。

群馬県・玉原高原探鳥会（要予約）

期日：10月24日（火）～25日（水）

定員に達したので締め切りました。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月29日（日）

集合：午前9時15分、東武日光線柳生駅前。

または午前9時30分、中央エントランス駐車場。

交通：JR宇都宮線大宮8：19→栗橋8：53着、栗橋にて東武日光線乗り換え8：58発。または東武日光線新越谷8：20→春日部8：38→栗橋8：58→柳生9：08着。

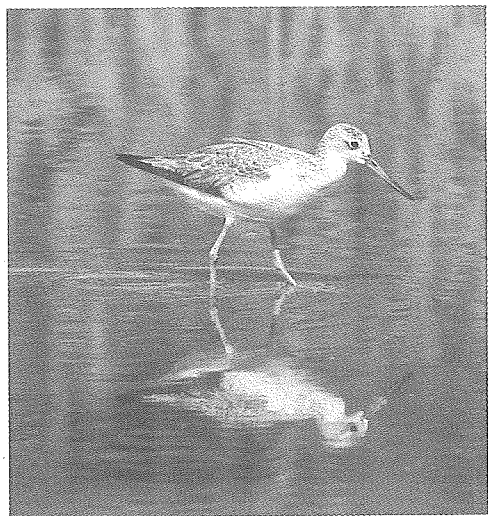
担当：橋口、高(文)、玉井、中里、入山、内田、高(剋)、田邊

見どころ：年4回のうち一番楽しめる季節です。今年はどんなカモが入っているか、いつも期待のかかる渡良瀬です。谷中湖のカモを見ながら、谷中村史跡で冬の鳥を探します。

長野県・白馬山麓探鳥会（要予約）

期日：11月3日（金）～4日（土）

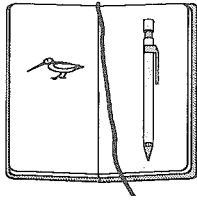
定員に達したので締め切りました。



アオアシシギ（外園たけの）

探鳥一口メモ

スズメバチやアブが危ない季節です。白い服装より、黒い服装の方が刺されやすいことを、ご存じですか。帽子もご注意ください。



行事報告

4月23日(日) 浦和市 秋ヶ瀬

参加: 38人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ オオタカ
キジ バン コチドリ ムナグロ タカブシギ
タシギ ユリカモメ キジバト ヒバリ ツバメ
イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ
セッカ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ
アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (29種) オオタカ、キ
ジが予定どおり見られたのだが、シギ・チドリ類
は4種だけだった。(福井恒人)

5月13~14日(土~日) 神泉村 城峯公園

参加: 12人 天気: 曇

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ トビ
コジュケイ キジ キジバト ジュウイチ ツツ
ドリ ホトトギス カワセミ アオゲラ アカゲ
ラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ ミソサザイ コルリ
クロツグミ アカハラ ヤブサメ ウグイス メ
ボソムシクイ センダイムシクイ キビタキ オ
オルリ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカ
ラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル ス
ズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシ
ブトガラス(43種) は県民の森だけ、は城峯だ
けで観察した鳥種。早朝、大宮駅前に集合し、バ
スで一路横瀬町の県民の森へ。若葉が芽生え、見
通しが利かないが、コルリ、クロツグミが姿を見
せた。昼食後、城峯へ移動。心配された雨もすり
抜けた。神泉村の神流湖畔をのんびり探鳥しながら宿へ。翌日は、明け方のバードコールも期待通
り。昨年は姿を見られなかったクロツグミ、キビ
タキ、オオルリも、最後にはイカルの群れの水浴
びまで観察でき参加者全員満足。(橋口長和)

5月17日(水) 栃木県 奥日光

参加: 27人 天気: 雨

マガモ トビ オオジシギ キジバト アカゲラ

コゲラ イワツバメ キセキレイ セグロセキ
レイ カワガラス ミソサザイ コマドリ コルリ
ノビタキ アカハラ ウグイス メボソムシクイ
エゾムシクイ センダイムシクイ キビタキ オ
オルリ サメビタキ コサメビタキ エナガ コ
ガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メ
ジロ ホオアカ アオジ イカル ニュウナイス
ズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラ
ス ハシブトガラス (38種) 湯元温泉駐車場にバ
スを降り立つと、ニュウナイスズメ、イカルの歓
迎。湯の湖畔では、ムシクイ3種の鳴き声と姿。
幸運な人はコルリの姿を見る。湯滝付近では、サ
メビタキ、コサメビタキの大群に、オオルリ、キ
ビタキまでが出現。長い時間動かずにいたので、
全員でじっくり観察できた。草原では、オオジシ
ギが高い枯れ木の頂に止まり、また、ノビタキ、
ホオアカ等もよく観察できた。(櫻庭 勇)

5月21日(日) 浦和市 三室地区

参加: 65人 天気: 曇

カワウ ダイサギ カルガモ コジュケイ キジ
バン コチドリ キジバト カッコウ コゲラ
ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ シジ
ュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムク
ドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
(26種) 毎年5月になり、代用水の桜並木の緑が
濃くなると、カッコウはやって来る。それがまた
探鳥会の前後の日となり、リーダーをやきもきさ
せる。今年はカッコウとウグイスの声が重なった
三室の探鳥会だった。(楠見邦博)

5月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

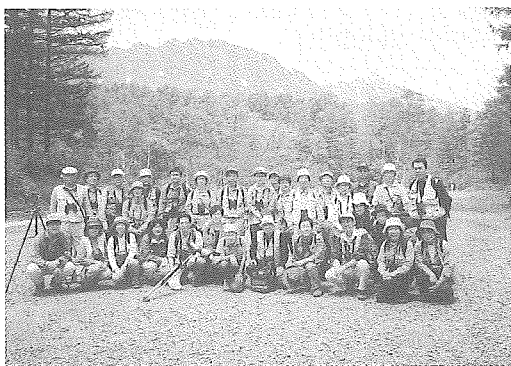
ボランティア: 15人

荒木恒夫、伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、海
老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、篠原東彦、島
田恵司、志村佐治、原島浩、福井昭子、藤野富代、
増尾隆、松村禎夫

5月27～28日(土～日) 長野県戸隠・飯綱高原

参加: 31人 天気: 27=晴、28=雨後曇

カイツブリ アオサギ カルガモ ハチクマ トビ イヌワシ キジバト ジュウイチ カッコウ ツツドリ ホトトギス ハリオアマツバメ アマツバメ アオゲラ アカゲラ オオアカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コルリ マミジロ クロツグミ アカハラ ウグイス オオヨシキリ メボソムシクイ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ オオルリ サメビタキ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ イカル ニュウアイズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (59種) 上々の天気だったが、翌日が心配で、ここ数年収穫の少ない飯綱は大谷地と台座法師池だけ回ることにした。大谷地では、オオヨシキリが騒がしく囀り、上空にはハチクマが舞った。森林植物園ではサンショウクイ、コムクドリ、キビタキ、コサメビタキなどが我々を歓迎してくれた。夜半に降り始めた雨は4時頃にはほとんど止んでいて、希望者で植物園に向かった。前日はほとんど聞くことができなかつたクロジやコルリの声が聞こえ、クロジは間近で見られた。朝食後、全員でオオアカゲラ、サメビタキが観察できた。また、数年ぶりに奥社まで登り、オオルリも見た。(菱沼一充)



5月28日(日) 狭山市 入間川

参加: 21人 天気: 曇

カワウ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ トビ イソシギ キジバト カワセミ アオゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセ

キレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 前日の天気予報は、誰もが中止だろうと思う降水確率。当日、予報は見事にはずれ、薄日の差す天気。ササゴイ、オオヨシキリ、見落とした人も多いかもしいないが、目先がきれいな青緑色のダイサギがみられた。(長谷部謙二)

6月4日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 57人 天気: 晴

カワウ ヨシゴイ ゴイサギ アオサギ カルガモ ノスリ チョウゲンボウ キジ バン コチドリ コアジサシ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ コヨシキリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 調整池の工事はお休み。さわやかな北風に乗って、オオヨシキリ、コヨシキリの歌声が聞こえる。コヨシキリは、夏の差間に定着したようだ。芝川ですくすくと育てているカルガモの子、季節はずれのノスリを見て、終わってみると29種。ホッ。(手塚正義)

6月11日(日) 熊谷市 大麻生

雨のため中止。

6月18日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 31人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ アオサギ オシドリ カルガモ オオタカ キジ バン コチドリ イカルチドリ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス (29種) 城西大より高麗川を見下ろすと、キジのみが朝風呂ならぬ土浴びをやっていた。梅雨の中休みで、とても暑くなり、木陰を見つけては小休止。終点では、なんとオシドリの夫婦が夏羽姿で出現。鳥合わせは城山橋付近の涼しいところに戻って行った。ヤマセミの営巣地を守る看板を市役所が立ててくれたのがうれしいニュース。(藤掛保司)

連絡帳

●同封発送今月号から

『野鳥』誌の封筒に同封された『しらこぼと』を受け取られた特別会員と総合会員の皆様、いかがですか。ご不快なことやご不便はありませんか。

同封した挨拶文の通り、本部支部共に経費節減を目指しています。ご意見など、支部事務局又は下記の本部会員センターまでお寄せください。

支部型会員には、従来通り支部からの封筒が届きます。

●袋づめの会の内容充実を

支部が袋づめする対象は支部型会員だけとなりましたので、作業時間が少なくてすむようになりました。しかし、折角会員が事務局に集まる貴重な機会ですから、合わせて、談話会や報告会、作品発表会などが開けないかと考えています。

役員会で出されたアイデアは、昔の写真クラブ定例会のような写真(スライド)やビデオ作品の発表、パソコン教室、テーマを決めた談話会など……。

今月はとりあえず海老原副支部長がパプアニューギニアのビデオ映像を披露します。その内、パソコンでの写真入り名刺の作り方講座なども予定しています。

日程も変更になります。最終土曜日だった今までから、1週間早まります。

●会員センターの統計から

『会員センター通信No.6』で、本部型会員を含めた都道府県別会員数の統計が発表されています。

2000年3月31日現在埼玉県は3,356人。東京8,581人、神奈川5,963人に次ぐ全国3位。

対前年比の伸び率は0.6%で全国20位、全国平均は0.2%。

1999年10月1日現在の推計人口に対する比率は0.048%で全国9位、全国平均は0.043%でした。

この時の全国合計は53,965人でした。

●養護盲老人ホームひとみ園から感謝報告

同所から送られた会報に、「書き間違い官製ハガキ、未使用ハガキ、使用済切手、未使用切手、使用済テレホンカード、未使用テレホンカード、使用済オレンジカード、使用済ハイウェイカード、使用済メトロカード、その他の使用済カード、物品」寄贈協力者として当支部が掲載されています。

支部事務局には心当たりがないものですから、会員のどなたかが、支部の名前でお送りくださったものと思います。ありがとうございます。

送り先は、〒366-0811 深谷市人見1665-3の同園(TEL 048-573-5222、FAX 048-573-6633)まで。今度お送り頂く時は、ご自身のお名前どうぞ。

●10月の事務局 土曜と日曜の予定

- 1日(日) シラコバト見つけ隊会議。
- 7日(土) 編集会議、普及部・研究部会議。
- 14日(土) 校正作業。
- 15日(日) 役員会議。
- 21日(土) 袋づめの会。

●会員数は

9月1日現在2,927人です。

活動報告

8月12日(土) 9月号校正(海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司)。

8月13日(日) 役員会議(司会:島田恵司、関東ブロック協議会出席者・袋づめの会の充実・その他)。

8月28日(月) 9月号発送(倉林宗太郎、志村佐治、藤掛保司)。

編集後記

リーダー研修会の自己紹介でサンズイ西に詳しい人が多かった。○○ツルとか○○タカの識別方法を教えてもらおうか。(山部)

編集部用のアドレスを用意しましたので、どしどし原稿をお寄せ下さい。アドレスは、yamabezuku@hotmail.comです。(森本)

『しらこぼと』2000年10月号(第198号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
 インターネットホームページ <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事はすべて上記ホームページに転載されます。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用